

2020年度

社会福祉法人一廣会

金井原苑 事業計画書

I 基本方針	3 ページ
重点施策	
II 事業内容	
1. 事務課	4 ページ
2. 地域福祉課	6 ページ
通所介護	6 ページ
地域密着型認知症通所介護（桃の木亭）	7 ページ
訪問介護（ヘルパーステーション）	8 ページ
訪問看護（訪問看護ステーション）	9 ページ
居宅介護支援事業（ケアプラン）	10 ページ
片平地域包括支援センター	11 ページ
高石地域包括支援センター	12 ページ
3. 生活援助課	13 ページ
介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	13 ページ
短期入所生活介護（ショートステイ）	
相談	14 ページ
医務	15 ページ
栄養	16 ページ

1. 基本方針

2020（令和2）年度は、第7期かわさきいきいき長寿プラン（高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 H30-32）の最終年であり、次期計画への反映を意識しながら、当法人は地域を面で支えるための事業整備、介護・医療連携、地域支援事業を推進いたします。

また、今年度は当施設の25周年記念事業を行い、行動指針を策定します。

ケアの理念は“その人らしい暮らしの実現”を基礎とし、関係団体とも情報共有し、中期計画「かないばら安心プラン」を地域と対話しながら作成します。包括的な在宅ケアをめざして、在宅系と入居系サービスが切れ目なく展開できる事業連携を強めます。

同時に、組織運営の課題である収益確保体制と経営組織の強化、人材育成・定着・多様な人材の確保を、さらに充実させてまいります。特にキャリアデザインの描ける働きやすい就労環境を整えると共に、「地域の学校」を広げ地域包括ケアの人材を地域で育成します。

継続的に、地域包括ケアシステムの進展が「軽度者の切り捨て、自立支援の強制、寝かせきりの施設や在宅の増加」にならないよう、地域包括支援センターを中心に、地域の方々、利用者家族、行政、社会福祉協議会、社会福祉法人、企業団体等と共に地域包括ケアシステム作りの役割を担います。また、社会福祉法人の使命として「地域における公益的な取り組み」を積極的に実践します。

重点施策

1. 25周年記念事業を行います。
長年大事にしてきた法人理念を見える化するとともに行動指針を策定します。（新規）
2. 安心プランを地域と対話して作成します。（ほぼ継続）
 - * 片平が新事務所へ移転し、高石包括ともにサテライト運営をいたします。
 - * ご近所ネットワークの定例化 ～片平 11（仮称） 高石 11（仮称）
 - * 在宅で生ききるための医・介・福サービス
 - * 認知症になっても暮らしやすいまち
 - * 生活支援の充足
 - * 災害弱者の防災
 - * 地域の学校～地域包括ケア推進の人材育成 ～メッセージを発信
3. 音楽あふれる かないばら苑（継続）
 - * 音楽あふれるボランティア活動を推奨します
 - * 音楽のある生活ケアや音楽プログラムの工夫を手掛けます
 - * 五感に快適な生活環境整備を進めます

【事務課】 2020 年度 事業目標

- 1 生活援助課、地域福祉課の良き後方支援として
- 2 法人の窓口としてホスタビリティ溢れる事務課を目指す

重点目標

1. 長期事業計画
 - かないばら苑の長期目標「かないばら苑安心プラン」構築に向けて法人の事業展開を踏まえた資金計画（長期キャッシュフロー）を作成する
 - 川崎市福祉施設再編整備計画に基づいた将来の大規模修繕や必要資金の算出及び予算管理を行う
2. 事務課業務の再構築
 - 一般施設事務の他、ボランティア・研修事業・自費デイ等の地域公益事業と業務拡大してきた事務課業務を整理し、より効率化させていく
 - 効率的かつ適正な事務管理規定（内規/マニュアル）の策定
 - 設備修繕計画の見直し及び既存設備要覧の策定
 - 「働き方改革関連法案」への対応
3. 「ライフデザインを描ける職場づくり」の具体化のに向けて
 - 働きやすい環境づくり、キャリアパス支援を行う
 - 「働き方改革関連法案」への対応
4. 「地域における公益的な取組」
 - 地域公益担当及びボランティアコーディネーターの協働により、「ロコモチャレンジ」及び「サロン送迎」とボランティア活動を融合させ、地域ニーズに合わせた一体的な取組みに進化させる
 - 地域福祉の拠点として地域包括ケアシステム構築に向けた介護人材育成のための研修事業の実践をする
5. 研修計画
 - 各職員に適時、社会福祉法人会計簿記や労務関係研修、及び接遇やビジネスマナー研修等の業務上必要な研修参加を促進する

6. 法人共通人材育成

- 人材育成指針に基づき、人材育成担当を中心に下記項目を実践する。

①研修システムの定着

「まなび ai かないばら」スキルアップ研修プログラムの実施サイクルの定着を図る。

特に、人材育成指針の現場周知、職員の計画的な研修参加に向けた年間計画、研修参加回数の把握、事業所別研修の管理方法の作成に着手する。

②キャリアパス支援の推進

職員個別の人事カルテを作成する。

資格取得支援制度の周知。

③働きやすい環境づくりの推進

ライフデザインを描ける「職場」の働きやすい環境づくりにおいて、それぞれのテーマに対し、組織内の情報収集、推進のしくみを強化し、長く安心して働ける職場づくりをしていく。

【桜坂デイサービス】 2020年度 事業目標

1. デイサービスが在宅介護を不安なく続けるための窓口となるように意識し、日々のケアに取り組む

重点目標

1. ご利用者の自宅での生活状況を把握し、在宅生活を継続するためのケアを展開する
 - 在宅生活、介護を無理なく継続するための包括的なケアを検討し実施する新規利用者や在宅生活の継続が難しくなってきた利用者を全職員で一人ずつ丁寧な関わりをしていく
 - 家族、介護者同士が、在宅介護を続けるなかでの想いを共有する場や、介護の不安を抱え込まずに相談できる場となるように、家族懇談会を開催する利用者ニーズ、家族ニーズを把握するための意向調査の実施
2. 法人内の入居及び在宅サービスの連携を強化する
 - 在宅介護を支援する法人内のサービス事業所間の情報共有をスムーズに行えるシステムを構築し、在宅介護の継続、ご本人・ご家族が不安なく在宅介護から施設介護への移行ができる支援や在宅介護での看取りができるように連携を強める
 - 各種会議等で検討の場を設け他部署との連携を図る
3. 音楽を通じたケアを強化する
 - 新しい音楽レクの提案や、マイソングを取り入れたケアを実施する
 - 音楽療法の効果的な見直しやアセスメントの充実
 - マイソングをアセスメントに取り入れ充実を図る
4. 研修：職員ひとりひとりが、利用者の在宅生活継続に必要な知識・技術を習得する
 - 個別ケアで必要とされる内容について、スピーディーに研修を取り入れるアンケートを通し勉強したい中身を聴取し、スタッフ会議の中に研修を位置付ける
 - 利用者ニーズに合わせた新たなプログラムを実施していく

【桃の木亭】 2020 年度 事業目標

- 1 誰もが、五感に快適な時間を過ごし、安心できる居場所となる。
- 2 小規模デイとして、魅力的な個別ケアを実践する。

重点目標

1. 利用者様と共に作って食べられる、手作りおやつを季節ごとに行う。
 - 手作りおやつの実施
 - メニュー決めだけでなく、材料、調理工程を利用者様と考え作る。
 - 桃の木亭の名物プログラムとして育て、広報を強化する。
2. マイソングを活用した、音楽ケア
 - 音楽系レク、傾聴（会話）の中で、マイソングを活用したケア。
 - 情報をご家族と共有し、在宅でご家族に活用して頂く。
3. 研修
 - 意図的に回想法を取り入れた、コミュニケーションの実践。
 - ひもときシートを活用した、認知症ケアの深化。
（来年度のかながわ高齢者福祉研究大会の技術発表予定）
 - ご家族に、在宅時での困り事を聞き取り。それらを共有、またはアドバイスを
行っていく。

【訪問介護】 2020年度 事業目標

- 1 地域に強い基盤をもった、安定した事業所としての運営をチームとして行います

重点目標

1. 特定事業所として強みを持った事業所を運営できる体制の強化
 - ・サービス提供責任者の業務の法令遵守と業務の効率化
 - ・サービス提供責任者として営業力を身に着ける
2. 安定した事業所運営に欠かせない登録ヘルパーの獲得をめざす
 - ・働きやすい職場環境を整える
 - ・ヘルパー給の見直し、処遇の改善をはかる
3. 地域や多職種との連携の強化をはかる
 - ・困難ケースの事例の支援や共有や連携を積極的におこない、安心プランにそった事業所としての動きができる仕組みづくり
 - ・訪問介護連絡会への参加など、地域の横のつながりの強化
4. 研修
 - ・サービス提供責任者のスキルアップを目指す
 - ・ヘルパーへの指導力の底上げ
 - ・介護保険制度の知識の向上

【訪問看護】 2020 年度 事業目標

- 1 住み慣れたご家庭で最後まで安心して暮らして頂けるサービスの提供

重点目標

- 1.在宅生活を支えるサービスの提供
 - ・個別性に合わせた看護・リハビリの提供
 - ・在宅看取り、長期在宅療養の支援
- 2.安定した事業所運営
 - ・包括・居宅事業所等に対してPR活動を定期的に行う
 - ・得意としている支援内容を明確にし、PR活動を行う
- 3.訪問看護・OT実習の受け入れ
 - ・福祉施設や福祉サービスを体験し福祉について理解のある人材を育成する
4. 研修
 - ・前期：創傷治癒・褥瘡処置の技術の研修
身体評価・看護リハビリ
 - ・後期：困難ケースの症例検討

【居宅介護支援】 2020年度 事業目標

～多問題や困難ケースも日々のケアマネジメント業務も楽しく乗り越えよう大作戦～
ケアマネー一人で抱え込まないようにチームワークで明るくケアマネジメントを行う
多職種と連携してありのままの利用者を様々な視点から支援する
燃え尽きないようにライフワークバランスを大切にする事業所運営に取り組む

重点目標

1. ケアマネジメント及びチームアプローチの向上のため副担当制を強化する
 - ・全利用者に副担当を配置し、複数のケアマネにより支援方針の検討に活かす。
 - ・チームワークを深め、ありのままの利用者を受け入れて、明るく楽しいケアマネジメントを実施する。(ありのままの利用者を支えて新しい支援方法の展開やケアマネが一人で悩まないような体制作り。)
 - ・ケアマネ交代など緊急時の居宅内の体制変更やフォローできる体制作り。
2. 事業所と顔の見える関係づくりを行う
 - ・提供票を事業所へ持参する、サービス利用時の様子確認を行うことで直接担当者と利用者についての情報共有を行う。
 - ・新たな事業所の情報収集や見学を行い、利用者の支援に活かしていく。重度の認知症や医療依存度が高い利用者（看取り）、困難ケースに強い事業所などの情報収集を行う。
3. 持続可能な事業所運営を目指して業務改善に取り組む
 - ・定型的な業務（記録、一連のケアマネジメント業務、法人内の居宅の役割など）を見直して残業時間の削減を目指す。
 - ・過度な負荷によりケアマネが孤立しないように、法人内の他部署とも連携して楽しく業務を遂行する。

【片平包括】 2020 年度 事業目標

- 1 「認知症にやさしいまち」「地域で生ききるまち」「独居・高齢世帯でも安心なまち」
この3本柱の実現に向け、地域や関係機関と協働する

重点目標

1. 地域ケア圏域会議の常設化（安心プラン）
 - ・地域の困りごとを「解決できる場」をつくる
2. 認知症でも安心して暮らせるまち
 - ・認知症サポーター養成講座の実施（小中学生向け定例開催・介護者地域向け）
 - ・包括支援センターの機能と役割を幅広い世代に普及・広報する
 - ・認知症の正しい理解と予防について地域とともに考える
3. 地域で生きることができるまち（継続課題）
 - ・本人家族の意向や心構えの勉強会の実施
 - ・支援者向けの勉強会の実施（病院・訪問看護 St・ケアマネ・事業所等）
4. 独居・高齢世帯でも安心して暮らせるまち
 - ・フォーマルインフォーマルサービスのリスト化
 - ・何でもガイドブック～私のまちの便利帳（仮称）～の作成・更新
 - ・介護保険外サービス提供事業所の発掘と協働
5. 人材育成と研修計画
 - ・人材定着に向けて、マニュアルや研修計画を整備する
 - ・内部研修 「認知症」「医療連携（看取り）」「権利擁護」
 - ・外部研修 「川崎市包括職員現任」「専門職のスキルアップ」

【高石地域包括支援センター】2020年度 事業目標

- 1 まちづくりを意識した事業展開を行う
- 2 地域の課題に対して、所内、区内でのチームで取り組む

重点目標

1. 継続して、職種や個々の特性を生かして業務に取り組む
 - 保健師が中心となり、地域への調査で出た地域のニーズに対する予防的な地域の健康づくりのアプローチをする
 - 消費者被害や権利擁護の相談に対し、地域への啓発活動を専門機関と協働し、社会福祉士が中心となり継続する。
 - 地域住民の参加を呼びかけ、地域住民が自立したと形となるよう取り組む。
 - 所内の資料やマニュアルを整備する。
2. 所内の職種間連携や区内の他包括、地域の関係機関と共に、地域課題の把握と解決方法を検討する
 - 困り事を解決する場づくりとして地域ケア会議を常設化する。(安心プラン)
 - アンケートや地域ちからシート等の結果を基に、地域別(高石、多摩美等)に地域住民と一緒に検討する。
 - 所内連携をし、協働した事業を行う。
 - 認知症対策として、サポーター養成講座・フォロー講座の実施を継続する。
3. 地域の方々や、関係機関の力が互いに生かせる取り組みのバックアップをする
 - 地域関係機関と共に事業を行う。
 - 地域関係者や地域住民向けに勉強会や説明に行く。
4. 研修計画
 - 川崎市で主催する地域包括支援センター対象の研修に出席する。
 - 法人内の法定研修に出席し、出席していない職員にも伝達研修を行う。
 - 緊急・事故・災害等はマニュアル等を確認し、継続研修として行う。

【特別養護老人ホーム 介護】 2020年度 事業目標

1. 入居者主体の『ここで暮らせて幸せ』と思える生活の提供。
2. 働きやすい環境づくり

重点目標

1. フロア長を中心としたグループ運営体制の確立。
 - ・グループチーフの育成
 - ・全職員との個別面談をチーフ、フロア長にて実施。
 - ・チーフを中心としたグループケアの質の維持・向上。
 - ・共通道具統一、管理方法統一
2. 入居者ひとりひとりの生活に彩りを
 - ・音楽療法の視点を取り入れたプログラムの作成・実行。
 - ・有償ボランティアを活用した個別外出支援の実施。
 - ・認知症の方が過ごしやすい共有スペースの検討。
3. 看取りの深化
 - ・自宅に戻って最期を迎えられる方法の確立。
 - ・看取りについての勉強会の実施。
 - ・看取り後のデスカンファレンス、ご家族へのアンケートの実施。
4. 人材育成
 - ・内部、外部研修の充実。
 - ・資格取得のための勉強会の実施
 - ・社会人としての接遇・挨拶・言葉使い・表情（笑顔）・身だしなみを向上させる
 - ・指導スキル研修に取り組む

【相談】 2020年度 事業目標

- 1 ご利用者の在宅生活の継続を支える特養、ショートステイ事業を目指す

重点目標

1.稼働率の維持と確保

- 各関連事業所や特養、ショート申込者に対して積極的な情報発信を行い、安心した在宅生活を送れる様なサービス提供を目指します。

2.地域に根ざしたサービス、繋がる支援

- 必要な時期に必要なサービス提供となる様、法人内事業所の連携を強める。
- 施設ケアの情報提供を継続する。新たに地域住民向けに発信していく。
- 居宅介護支援事業所、医療機関のソーシャルワーカーと交流の機会を持つ。

3.相談援助職として専門性の向上の為の研修と業務の共有をはかる

- 相談業務の標準化や簡素化を常に検討し、相談業務の円滑化を図る
- 法の理解、実践情報の収集、人間観の確立、相談面接技法等を中心に積極的に外部研修に参加する

【医務】 2020年度 事業目標

- 1 エンド・オブ・ライフを支える看護
- 2 特養看護職員の定着

重点目標

1. 個別性のあるエンド・オブ・ライフを支える看護
 - ・病気を病気としてではなく、人生の一部と捉え生き切るための支援
 - ・入居者、家族の希望を尊重した支援
2. 個別性のある看取りケア
 - ・嘱託医、医療機関と連携し、苦痛のない安らかな最期を迎えられるよう支援
 - ・人生の終焉を迎える場所を限定しない
 - ・グリーフケアカンファレンスを行い看取りケアの質を高める
3. 研修計画
 - ・感染研修を栄養士と共に立案し実施
 - ・褥瘡研修・看取り研修・認知症研修の実施
 - ・疾患別研修へ積極的に参加し看護スキルを高める

【栄養】 2020年度 事業目標

- 1 その人に合わせた栄養管理
- 2 美味しく楽しめる食事の提供

重点目標

1. 栄養ケア・マネジメントの充実
 - ・摂取課題のある方の栄養ケア・マネジメントの内容を充実させる。
2. 日々の献立内容の充実
 - ・日常の献立だけでなく、季節感やその時期の行事等を反映した、味付けや見た目にもバラエティに富んだ献立の立案。
 - ・日常のやり取りとともに、定例会議や食事会議を通し、厨房業者とより連携をはかり、献立に反映する。
 - ・ご家族への聞き取りも含め、ご利用者の嗜好調査を行う。
3. 災害対策
 - ・非常食について、災害発生時にスムーズに対応できるよう整備する。
 - ・非常食・必要物品の在庫把握、献立への組み込みの計画、次回2021年度入れ替え予定の食品の購入計画を立てる。
4. 研修計画
 - ・食事委員会主催の食事研修の企画・参加
 - ・法定研修である感染研修について、医務と協同し、立案・参加を行う。
 - ・自己研鑽の為、外部研修への積極的な参加（主催：川崎市老人福祉事業協会・麻生区・神奈川県栄養士会）。

